



重富小学校 学校便り

令和3年度 5月号

創立133周年

剣の平

(重富小HPアドレス)

<http://www12.synapse.ne.jp/sigetomisyo/>

学校
教育
目標

「主体的に考え、豊かな心で感じ、粘り強く取り組む子どもを育てる」

芒種 (ぼうしゅ)

～必ず実る！その日を願って～

校長 鎌田 浩希

芒とはススキと読みますが、イネ科の植物のことを言い、芒種（ぼうしゅ）とは、それら稲や麦の種をまく大切な時期を表します。暦の上での言葉で、今年は、6月5日になります。

長年にわたる気候の変動や生活・経済の変化から、超早場米など実際に種をまく時期は変わってきましたが、それでも農業に携わる方々の多い地域によっては大切な言葉としてこの時期に使われています。

4・5月の慌ただし中にも、学級PTAや家庭訪問、また、書面決議ではありましたがPTA総会など、情報を共有し連携を深める機会をいただきました。ありがとうございました。



そこから落ち着きを取り戻したこの時期、芒種。間もなく6月。今のままに満足せず伸びていこうとする子どもたちの心と体にどのような種をまきましようか？

豊かに実った麦や米は、夏の終わりには収穫が始められ、秋の十五夜祭りなどでその実りに感謝しながら、これまでの努力を認め合い、達成感を味わう日がやって来ます。

芒種から収穫まで同様、子どもたちがやがては誇れる素晴らしい実を付け成就感を味わえるよう、現状や今後をじっくり語って取り組めるよい時期です。学力、体力、豊かな心。子どもの将来に夢をもたせ、それに向かって歩み出すために、これからも学校と家庭、地域が連携して手立てをとり、子どもたちの中にすばらしい可能性の種をまいていきましょう。

『 平時にこそ備えあれ 』 ～ 防災も子育ても ～

梅雨に入り、豪雨であったり暑く晴れたりする中、子どもたちはコロナウイルス感染防止を意識しながらも充実した学習活動を行っています。子どもが笑顔でいると安心します。コロナに備え、大雨に備え、これからの熱中症に備え、地震や津波にも備え…。平常時には手間を感じ忘れがちになる様々な対策を、慌てることのない平時のうちにとっていくことは大切です。発生してからの対応に比べたら、防止するための備えの方がまだ労力は少なく済むことはよく言われます。



大雨の時期、朝の登校をどうするか、川の氾濫などがあった時我が家はどうかするなど、対応を話し合い、事前にできる準備を整えておくことが必要です。

さて、子どもの成長を平時で言うと、保護者の下にある今はまだ平常の時期なのかもしれません。今学習していることは、これからの将来を描いていく備え。平時の今のうちから、知識や技能、思考や判断、表現力、気力、体力等を育て、変化の激しい時代をたくましく生き抜く備えをしておく必要があります。今の備えで十分なのか、必要なものは何か。

備えることで、やがてはそれぞれの実情に即しながら確実に自立の日を迎えることとなります。